

大和田さんの学級では、自分たちが生活する緑山地区について調べたことを新聞にまとめ、学級の友達に発表することになりました。大和田さんは、地震災害じしんについて調べています。

ー まず、大和田さんは、近所の人に取材をして、情報を集めることにしました。大和田さんは、聞いておきたいことを落とさないように、事前にインタビューメモを作って取材を行いました。

〈インタビューメモ〉

インタビューの相手	近所に住む自治会長 白井さん
目的	過去に緑山地区で起こった地震災害 <small>じしん</small> について、体験談をもとに話を聞く。
必ず聞きたいこと	必要に応じて聞きたいこと
<p>聞きたい話題① 具体的なひ害について</p> <p>◎ 具体的にどのようなひ害があったのか。</p> <p>(予想) 土砂<small>つちご</small>くずれや川のせき止め</p> <p>聞きたい話題② 体験談について</p> <p>◎ どのような体験をしたのか。</p>	<p>・ 緑山地区で最もひ害が大きかった場所はどこか。</p> <p>(予想) たちばな公園(元工場だった場所)</p> <p>・ どこに、ひなんしたのか。 ↓ どれくらい。</p> <p>・ 地震が起きた後、子どもたちは、小学校に通うことができたのか。</p>

〈大和田さんのインタビュー〉

白井さん、こんにちは。今日は、昔、緑山地区で起きた大地震について聞きたいと思います。よろしく願いいたします。
よろしく願いいたします。

白井さんは、長年、この緑山地区で生活されていますよね。今から五十年ほど前に起きた大地震について、この緑山地区の具体的な被害について教えてください。

そうですね。あの時は立ってられないほど、大きく地面がゆれたのを覚えています。具体的な被害ですが、この緑山地区は山のふもとの地区なので、多くの場所で土砂くずれが起きました。昔、地区を流れていたみどり川は、土砂でせき止められ、今では湖になっています。

みどり川が湖になった話は、社会科の授業で聞いたことがあります。その時、たちばな公園がある場所も、大きな被害があったと先生から聞きました。やはり、緑山地区で最も被害が大きかったのは、たちばな公園なのでしょうか。

はい。以前、たちばな公園があった場所には、大きな工場がありました。地震の被害で、その工場の建物がほとんどつぶれてしまいました。幸いにも、人への被害はなかったのですが、大きな地震があったことを忘れないために、工場のあと地を公園にして、記念碑が建てられています。

なるほど。大きな被害があったんですね。地震があった当時、白井さんは小学生だったと聞いておりますが、忘れられない体験などがあつたら教えてください。

分かりました。本当にこわい思いをしたので、今でも昨日のことのように覚えています。……

一 インタビューメモの内容から、大和田さんの取材の方法として適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 聞き取りの時間配分や場所を考えて取材しようとする計画を立てている。
- 2 正確な情報を聞き取るために、具体的な写真や資料を用いて取材しようとする計画を立てている。
- 3 たくさんの情報を得るために、相手を決めずに取材しようとする計画を立てている。
- 4 聞きたいことに対して、どんな答えが返ってくるか予想を立てて取材しようとする計画を立てている。
- 5 必要な情報を得るために、必ず聞きたいことと必要に応じて聞きたいことを分けて取材しようとする計画を立てている。

--	--

二 大和田さんのインタビューの進め方の工夫で、最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 相手の話と関係づけた質問しながら、話題を進めている。
- 2 相手が話したことを聞き返し確認しながら、話題を進めている。
- 3 自分の考えや思いを中心に伝えながら、話題を進めている。
- 4 必ず聞きたいことだけを聞き取りながら、話題を進めている。

--

2 大和田さんは、取材をもとにふだんから災害に備える必要があると考えて、さらに市役所の人に取材を行いました。次は、大和田さんが取材した【市役所の人の話】と取材をもとにして書いた新聞の原こうです。

市では、地震などの災害に備えて、どんな準備をしていますか。



いざという時にそなえて、ひなん所に防災備ちく倉庫を配置しています。防災備ちく倉庫には、食べ物や飲み物、発電機など、様々なものが蓄えられています。

また、小学校に行つて、「防災教育」を行っています。みなさんも、自分の地域の危険を知ったり、災害用リュックなどを用意したりしておく、いざというときに安心ですね。さらに、市では防災マップを発行しているので、家族みんなでひなん所を確認しておくことも重要ではないでしょうか。

【新聞の原こう】

いざという時に備えよ！

市役所では、災害に備えて、様々な取組を行っています。例えば、小学校での防災教育や防災備ちく倉庫の配置を行っているそうです。

①、市役所だけでなく、私たち自身も、いざという時に備えることが必要だと思います。

私たちができることは、

防災新聞

二〇二〇年十二月

緑山小学校
五年一組
大和田 ひろし

緑山地区をおそつた大震災

私は、自治会長の白井さんに、緑山地区で五十年ほど前に起きた大きな地震について、お話を①聞きました。

インタビューの最中、白井さんはこわばった顔をして、当時の出来事を思い出されていました。



当時、小学生だった白井さんは、地震が起きた時、教室で授業を受けていたそうです。「どんつ」というひくい音とともに、ふつうに座つていられないほど、大きくゆれ出した地面。白井さんは、とつきにつくえの下にもぐりこみ、つくえのあしをぎゅつとにぎりしめて、身を守つたそうです。ゆれていた時間は、実際には三十秒程度だったようですが、白井さんにはもつと長く感じられたそうです。

「縮こまつた体が②かんぜんに動くまで、五分ほどかかりました。」という白井さんの言葉が、③強く心に残りました。

3 大和田さんは、インタビューをもとに新聞にまとめました。

5 ①の言葉——を、敬語けいごを使って書き直すことにしました。文の意味が変わらないように、正しい敬語を、次の1から4までの中から

一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 申しました。

2 参りました。

3 差し上げました。

4 うかがいました。

6 大和田さんは、②の言葉の漢字を習っていることに気づき、書き直すことにしました。——部②を漢字でていねいに書きましょう。

7 大和田さんは③の言葉を、意味を変えずに書きかえることにしました。次の1から4までの中から、③の言葉と同じ意味になる言葉を選び、その番号を書きましょう。

1 心理的でした。

2 印象的でした。

3 積極的でした。

4 理想的でした。